



代表理事組合長
宮脇 幸喜

明けまして

おめでとうございます

組合員・地域住民の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当JAの事業運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年の国内経済は堅調な設備投資や個人消費の持ち直しを背景に、緩やかな回復の動きがみられましたが、農業面においては、気候変動の影響や肥料・飼料等の生産資材価格の高止

まりなど、依然として日本全国において厳しい状況が続いた年でもありました。

また、新たな食料・農業・農村基本法については、食料安全保障の確保を軸とした、農業生産性の向上、食料システムの確立、農村における地域社会の維持等が今後の中長期的な食料・農業・農村政策の方向性として示され、今後は基本理念の実現や食料・農業・農村振興に取り組むこととなっております。

種子屋久管内の農畜産物については、大きな気象災害はなく、基幹作物のさとうきびについては、種子島全体で面積2,380畝（昨年より41畝増反）、単収7,296kg、生産量173,205tが見込まれております。一方、でん粉原料用甘藷については、面積で355畝（昨年より

86畝減反）、単収は植付遅れや基腐れ病等の影響もあり59.2俵、集荷量210,130俵でありました。

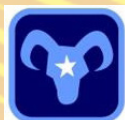
畜産においては、子牛価格は上昇傾向にあるものの依然として生産コストについては高止まりが続いており農家経営は厳しい環境下にあります。今後も引き続き、購買者誘致等を積極的に行うとともに、子牛出荷日齢短縮や購買者のニーズにあった子牛づくりを生産者と共に取り組んで参ります。

また、園芸・果樹品目については、これから出荷の最盛期を迎えますが、営農指導による単収向上と販路拡大による有利販売に努めて参ります。

このような農業情勢を受け、十一月二十五日、二十六日にかけて、生産者

代表も含めた、JAグループ及び鹿児島県農民政治連盟による「令和八年度畜産・甘味資源作物対策に関する中央要請」を行ったところです。

令和八年度は第七次中期三カ年計画の中間年度にあたりますので、自己改革の基本目標でもある、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に総力を挙げて取り組むとともに、協同組合として地域の持続可能な発展と農業経営体の経営安定並びに生産基盤の維持を図って参りますので、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、今年の干支である午年の勢いにあやかり、組合員・地域住民皆様方が大きく飛躍するとともに、今年一年のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。あいさつといたします。



牡羊座
3/21
～ 4/19

1月の運勢
モナ・カサンドラ

【全体運】緊張感を持って事に当たれば道が開けます。一つ一つ丁寧に前に進めていきましょう。下旬に変化の兆しあり
【健康運】疲れを感じたら無理をしないこと。休めば回復
【幸運を呼ぶ食べ物】セリ

JAたねやく
2026.1

2